「きれめなく子育て支援を」
「町中に子育て支援策」

中村末子（なかむらすえこ）議員

問 大阪狭山市「UPっぷ」では、世代を超えての支援策があったが、町長、教育長のお考えはどうか。

町長 報告は受けている。新設は困難だが、既存施設の活用を検討する。

教育長 図書館の分館として、貸出しに加え、中高生を中心にした学習の場、さらに若い子育て世代がくつろぎながら絵本等が読めるような機能を備えた利便性の高い施設を町中に準備できないか検討する。

問 地域の中で、子育て支援できる環境づくりはできないか。

福祉課長 小学生を対象とする放課後児童クラブ、社協塾、陽だまりハウスはあるが、中高生を対象とした場所については、今後検討したい。

意見 検討だけでなく実行して頂きたい。

◆畜産クラスター事業支援策について

問 牛、豚飼育について、自前での飼料づくりはどうなっているのか。

農業政策課長 牛では粗飼料として、自前でWCS用稲や牧草トウモロコシ作付が35軒、養豚と養鶏についてはない。

肉用牛でハーブ、パインを使ってブランド牛としている。

問 作物の差別化及び有機農法はどうか。

町長 作物の差別化及び有機農法について、作物の付加価値向上の一環としてGAP（ギャップ）認証や有機農法を推進している。

GAP認証は既に8軒が取得している。

有機農法については、若い生産者が関心を持っているようだが、普通栽培と比較して労力がかかる事や流通、販売の課題が多く、広がりがない現状はある。

木城町と協力して、2軒をお願いしている。

問 道路等への危険性のある民有地の樹木管理への支援はできないか。

町長 他の自治体での事例等を調査し検討する。

問 町営住宅屋根工事だが、補修で終るのか、建て替えを含む抜本的対策はあるのか。

町長 町営住宅屋根修復については、瓦修復の専門業者が手配がつかず苦慮している。現在修繕工事を発注している状況。

今後については、長寿命化計画に基づいて対応していく。

※この他、福祉と教育のあり方、地域との連携を子育て支援につなげるか、災害時弱者対応策について等を質問しました。

「成年後見制度について」
「利用拡大へ中核機関設置を」

日髙正則（ひだかまさのり）議員

問 認知症や知的障害などで判断力が十分でない人を支援する成年後見制度で、後見業務を一貫して支援する自治体がでてきているが、利用拡大に向けて中核機関を設置する考えがあるか伺う。

町長 高齢化が進む中認知症が進み判断力が低下していく不安があったり、知的障害のある子どもを残していく不安などがある方たちにとって、本制度は大きな支援となる制度であると考える。

問 高鍋町として、中核機関設置はいつ頃になるか伺う。

福祉課長 現在、児湯5町1村で協議を進めている。設置の時期については、令和3年度の設置を目標にしている。

問 親族による着服及び専門職の不正も後を絶たない。チェック体制は、どのような考えで行けば良いか伺う。

福祉課長 成年後見人は、少なくとも年に1回は本人についての財産目録などを家庭裁判所に提出し、後見人が1年間どのような活動を行ってきたかの事務報告を行って、裁判所の監督を受ける。その中で、裁判所が本人の財産を侵害していないかなど厳正なチェックを行うことになっている。

問 道路愛護事業の内容と実績について伺う。

建設管理課長 10メートル当たり10円、参加者1人につき150円を算出基礎として、年3回を限度としての事業を行っている。平成30年度の実績は37地区で、愛護報奨金を活用している。

問 意欲を持って取組んでもらうためにも予算の増額はできないか伺う。

建設管理課長 単価の増額要望も来ている。来年度から、増額する方向で検討したい。

問 各地区の道路を見てみると、老朽化に伴い舗装の凹凸が散見される。地域の人からも舗装の張り替えをしてほしいとの要望がある。舗装の点検、修繕等どのように考えているか伺う。

建設管理課長 嘱託員による巡回及び、職員の道路点検等を実施している。点検結果や町民の方々からの通報による簡易な修繕は随時実施するとともに、工事の必要な箇所については、年次的に舗修工事を実施していきたいと考える。

※他に道路愛護事業の取り組みが、難しくなった場合の提案もしました。

『雑草が生茂って側溝が見えない町道』

「高鍋町のふるさと教育について」
「まずは大人たちが高鍋のよさを再確認し合うことが大切」

古川誠（ふるかわまこと）議員

問 ふるさと教育の教育方針について。

教育総務課長 郷土を愛し自信と誇りを持つ子どもを育むこと。

問 石井十次や秋月種茂公を教材にしての教育の取り組みは。石井十次をしのぶ会での発表や、3・4年生の社会の授業で学習している。

問 高鍋高校・高鍋農業高校との協力や連携は。

教育総務課長 現在、本町並びに商工会議所とキャリア教育の推進に関わる包括連携協定を締結している。

問 カリキュラム・マネジメントの取り組み状況は。

教育長 8月よりALTの増員、特別支援教育においては、生活支援員を増員し、4校合同で、発達段階に応じた効果的な教科指導の研究に取り組んでいる。

◆学校給食について

問 食育の実施状況と地産地消の取り組みは。

教育総務課長 毎月の給食だよりの発行、食事を摂ることの大切さの啓発、ひむか地産地消の日には、県産の食材を多く使用している。

問 高鍋の児童生徒の朝食の摂取状況は。

教育総務課長 アンケートの結果、13％の児童生徒が朝食を摂らない日がある。

問 アレルギー対応については。

教育総務課長 対応を希望する保護者へ面談を実施の上、アレルギー原因食材を除去しての提供、代替品を提供等の対応を取っている。

問 弁当の日の取り組みについては。

教育総務課長 子どもの自立、家族の絆作り、生きる力を育むことを目的に、各校年に一回以上は取り組みを行っている。

問 土日の休日に登校する際の給食の対応は。

教育総務課長 小学校は参観日など土日の給食の提供はあるが、中学校では近年の提供の実施はない。

問 中学校は休日の給食の提供はできないのか。

教育総務課長 共同調理方式のため、東西中学校の間で同日の休日行事の開催、振替休日の設定が必要。

意見 保護者の負担軽減のため、ぜひ検討をお願いしたい。

また、調理担当の方には、これからも子どもたちの笑顔と「おいしかった」のために頑張っていただきたい。

『児童たちの給食の様子』